



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/>

平成19年 6 月

事 務 局 〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-21-1
 国立国際医療センター臨床検査部内
 発 行 者 三浦隆雄
 編集委員 吉田和浩・竹田信邦・立川康則
 印 刷 所 東洋印刷株式会社
 ☎ 03-3352-7443

第35回

国臨協関信支部学会・総会

日時：平成19年 9 月 1 日(土)

場所：国立国際医療センター

学 術 講 演

臨床微生物検査における最新のトピックス
 ～感染症法改正、品質保証、MDRP、専門技師制度など～

長 沢 光 章 (東北大学病院 診療技術部 臨床検査技師長
 東北大学医学部 臨地教授
 国立感染症研究所 協力研究員)

プロフィール

1979年	北里衛生科学専門学院 卒業
"	防衛医科大学校病院検査部 勤務
1986年～2007年	" 主任技官
2000年～2007年	" ICT委員、院内感染対策室管理
1995年～2005年	東邦大学医学部微生物学教室研究員
2002年	放送大学教養学部 卒業 (教養学士)
2005年～現在	東邦大学医学部 特別研究生
2007年～現在	国立感染症研究所 協力研究員
2007年 4 月～	東北大学病院 診療技術部 臨床検査技師長 東北大学医学部 臨地教授

臨床微生物・感染症検査領域における最新の話題より、以下の事項について時間の許す限り話題を提供し、ディスカッションを行いたい。

1. 感染症法の改正

- 1) 改正のポイントと対応について
- 2) 微生物検査室、技師・医学教育、外部精度管理等への影響、問題点

2. ISOとJCCLS/JAB臨床検査室認定制度

- 1) ISO 9001, ISO/TC212, ISO 15189, ISO 15190

- 2) JCCLS/JABによるISO 15189に基づく臨床検査室認定制度

3. 多剤耐性緑膿菌 (MDRP) の検査と疫学

- 1) 検査法の問題点
- 2) 全国の検出状況

4. 感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT) 制度の発足

5. 結核菌検査指針2007 (改訂版) の発行

6. その他

海外派遣研修を終えて（第1報）

NHO千葉東病院 宮 原 行 雄

財団法人がん研究振興財団の海外研修助成により、平成18年11月5日から16日までテキサス大学付属M.D.アンダーソンがんセンター（MD Anderson Cancer Center、以下M.D.A）において視察研修を行ったのでその一端を紹介致します。

アメリカ、テキサス州ヒューストン市のダウントウンから南へ4～5マイル行った所に世界一と言われるテキサス・メディカルセンターがある。メディカルセンター内には、がん治療、心臓治療、臓器の移植、小児科疾患、疾病の予防、メンタルケア等全ての要求に対応できる診療所や専門施設がある。さらにメディカルセンター内には米国内のベストホスピタルに選ばれている病院が5施設もある。M.D.Aとテキサス大学付属メモリアル・ハーマン病院、ベイラー医科大学付属セント・ルーク病院、ベイラー医科大学付属メソディスト病院、ベイラー医科大学付属テキサス小児病院である。センター内はその他に13の病院、テキサス大学医学部、ベイラー医科大学、ライス大学、4つの看護学校、歯科大学、薬科大学、公立診療所など40以上の機関と100以上関連施設が林立している。工事中のビルが2～3ヶ所あったのでまだまだ施設は増えて行くだろう。また、メディカルセンターの内外に沢山の宿泊施設が建ち並び、メディカルセンターが一つの町を形成してかのように思われる。

メディカルセンターには全米はもとより世界各地から患者が集まって来る。1年間にメディカルセンターを訪れる患者数は540万人、その内、外国から来る患者数は2万人、センター内のスタッフ数6万人、病床数6000床を有する。その為、宿泊施設と病院とは無料のシャトルカーが頻繁に行き来している。

M.D.Aはこのメディカルセンター内にあり、2005年の統計によると病床数は480床（この他に簡易病床が有るとのこと）で入院患者数18,000人、外来患者数470,000人、世界50ヶ国から3,500人の患者が診療に来ている。勤務するスタッフは15,000人、ボランティアは1,000人が登録されている。M.D.Aでは外来患者の検査は24時間体制で行われている。これは、仕事を終えた患者が夕方からの治療を希望する為である。また、M.D.Aは直営宿泊施設をメディカルセンター内に保有しており、患者は宿泊しているホテルでも24時間いつでも診療を受けることが出来る患者中心の医療体制になっている。M.D.A.

と宿泊施設と駐車場（10階建て位のビルが12箇所）は直接繋がっており、そのビルとビルはボランティアが運転する無料の電動シャトルカーで自由に往来出来る。

世界各国から来る患者の為にインターナショナル・サービス・オフィスがある。私もヒューストン到着後、直ぐにこのオフィスに出向き、研修生IDカードの交付を受けた。またこのオフィスでは世界各国からの患者を受け入れるため、約40カ国の医療通訳者の対応などインターナショナル・サービスを行っている。しかし残念ながら日本語の通訳はいなかった。余談だが外国から来る患者の中には、アラブの石油王がいて自家用ジェット機で治療に来て、ホテルのワンフロアを貸し切り、数ヶ月も滞在するので、ホテル側はその為にフロアを改造したという。その後、改造したフロアは空き部屋になることなく毎日予約が入っているという。

今回、M.D.A臨床化学検査室のHerbert A. Fritsche 博士の招聘で臨床検査部を視察した。臨床検査部門はM.D.A.の組織の中でも3番目に大きな部門になる。実際にはDepartment of Laboratory Medicine（臨床検査部）、Department of Hematopathology（血液病理部）、Department of Pathology（病理部）、Department of Molecular Pathology（分子病理



広告

よこ（富士レビオ）

広告

よこ（和光）

部)の4部門がある。臨床検査部は、Division of Pathology and Laboratory Medicine と称し約90名のM.D.とPh.D.が勤務し、臨床検査技師が約250名、技術士は約150名が働いている。

今回、訪問した臨床検査部には生化学検査室、細菌検査室、血液検査室、輸血検査室、HLA検査室、検体処理室がある。血液病理部門には、免疫検査室、フローサイトメトリー検査室、分子診断学室、細胞遺伝検査室、骨髄検査室がある。それぞれの検査室は日常の業務の他に、複数の他検査部門と協同で研究業務も行っている。

また、コアラボとなる検査室の他に2ヶ所のサテライト・ラボがあり、このラボも24時間稼働している。コア・ラボにはI.C.Uや入院患者の検体を主に検査している。サテライト・ラボはそれぞれ診療科別に検体依頼先ラボが決まっている。これは、専門性を有する検査があるため、その技術・知識を備えたA.S.C.P(後述)の臨床検査技師が配置されている為である。検査室は8時間勤務3交代制で業務に当たっている。ちなみにM.D.A.では臨床検査医は臨床検査部内の生化学検査室、細菌検査室、血液検査室、輸血検査室、HLA検査室、検体処理室にセクションチーフとして配置されており、検査室の管理と臨床検査結果のコメント・コンサルタント業務を担当している。この中でも3名の臨床検査医は研究室を持って臨床研究を行っている。研究業績を重視するアメリカでは、十分な業績を挙げれば独立した研究室を構える事が出来、それがステイタス・シンボルでもある。

M.D.A.のコンピュータ・システムは、24時間体制で常時10人で管理運営に当たっている。いずれもシステム・エンジニアでありプログラムの改修や開発を行っている。

日本では心電図検査・超音波検査・脳波検査・呼吸機能検査などの生理学検査室は臨床検査部門に位置するが、M.D.A.ではMRI検査室等の理学的検査部門に所属している。

今回は各検査室について紹介する。



経営改善譚 — その2

国立病院臨床検査技師長協議会

関東信越支部会長 杉村 有司



機構本部は人件費節減のためにブランチャラボの拡大を検討するとしています。「検討」が入っている事がとても重要です。つまりブランチャラボ施設をかならず拡大するとは言っていないのです。

では人件費について見て行きましょう。人件費は貸借対照表では流動資産に、損益計算書では固定費として扱わ

れます。固定費を削減すれば支出が減るわけですから収支上では収支率は上がり一見経営改善されたように見えます。

しかし、人は人件費として支出の対象となるばかりでなく、収益を生み出す大切な財産でもあります。特に医療は労働集約型の業種です。この意味では人件費は掛かって当然とも言えます。

病院収入の大部分を占める医業収益は、保険診療報酬制度による保険点数の算定によって生み出されます。私どもが行っている検査も同様です。つまり検査部門は保険診療報酬制度の中で収益を上げることのできる部門なのです。

収益を上げることの出来ない部門の人件費は、節減すればそれだけ収支は良くなります。しかし、収益を上げることの出来ない部門の人件費は削減すると収益そのものを減らすことになり経営改善の方法としては好ましくありません。

一般の企業などでは収益を上げる部門、つまりコアコンピタンスな部門のアウトソーシングは失敗すると言われていました。昨年の8月26日に日本郵政公社が発表した事例を紹介しましょう。1970年代に当時の郵政省は、国家公務員の職員数とコストの削減を目的として小包郵便を全てアウトソーシングにしました。しかし日本郵政公社は、民営化に向けて小包郵便は収益の柱と位置付け2008年にアウトソーシングを全廃し、全て正規職員で行うことを決めました。

国立病院機構では、医事課・給食・検査とアウトソーシングが導入されました。しかし、検査が他の2部門と大きく違う点は保険診療報酬上収益を上げることのできる部門であるということです。これはとても重要なことです。

広告

たて (オリンパス)

広告

たて (アボット)

広告

たて (シスメックス)

微生物研修会に参加して

NHO東京病院
平 澤 誠



平成19年4月14日（土）国立がんセンター中央病院にて、微生物研修会が多数の参加者で開催されました。講師に、郡 美夫 氏（千葉市立海浜病院臨床検査科長、微生物学会評議委員）を招き、腸管感染症について医動物学を含め約2時間に渡りお話を伺うことが出来大変参考になりました。お腹

の調子が悪く病院に受診した場合など、現在は海外渡航者が多いので渡航歴の有無を確認し原虫（*Entamoeba histolytica*、*Giardia lamblia*、*Cryptosporidium*）などの検査を行ったほうが良いということ、また、これら各原虫の検査方法や注意点、鏡検時の特徴、簡易の検査方法、感染方法、感染に必要な菌量、渡航先別による原虫検出状況など、研修会ならではのことを聞け、初めて聞くことや今まで忘れていたことを新ためて再認識することが出来、また治療法や予防についても知ることが出来ました。一般細菌のお話では腸管感染症には抗生剤投与は必要と、今まで私自身思っていました、薬剤投与が必要なのは数菌種しかいないということを知り驚きました。そして便培養時の使用培地には、乳糖非分解菌には気を付けなければいけないため、これらが判る培地を含めること、培養時間によっては遅延で乳糖を分解してしまう菌がいるため培養時間は注意すること、確認培地を用いて同定するときの注意点など、新ためて再認識することが出来ました。また同定キット使用時の注意点なども聞け大変参考になりました。塗抹標本では腸管感染症の場合白血球が多数見られると思っていたが、毒素産生菌による腸管感染症で白血球は見られない事を知り勉強になりました。現在微生物検査を担当してる私ですが、この研修会に参加することで今まで忘れていた多くのことを思い出せたこと、新たな知識を得たことは大変有意義だと思います。これからこれらの事を参考に検査業務に役立てて行きたいと思います。



国立成育医療センター
外 川 靖 士



平成19年4月14日（土）国立がんセンター中央病院において、国臨協関信支部主催の微生物研修会が開催されました。

当日の講師は、千葉市立海浜病院の郡 美夫 先生に医動物学を含めた腸管感染症について講義を頂きました。

講義の前半は、腸管感染症の原因となる

原虫の基礎知識から直接塗抹時における鏡検のポイント、症例などの講義が行われました。

後半は、腸管感染症の原因となる細菌についての知識からグラム染色での鏡検方法、培地の選択方法、症例など、幅広く内容の濃いものでした。

私は、細菌検査に携わるようになり、まだ日が浅い為、最初は講義について行けるのか不安はありました。しかし、郡先生は基礎知識からわかりやすく講義をして頂けたので、とても興味深く聞くことができました。

現在は、ルーチン業務を覚える事に追われる日々ですが、この研修会で得たものが日常業務で活かされるように日々努力して行きたいと思います。

最後に講師の郡先生ならびに、このような研修会を企画して頂きました関信支部役員のみなさまに深く感謝をし、お礼を申し上げます。



広告

たて（SRL）

広告

たて（テクノメディカ）

広告

たて（協和）

Event

平成18年度退職会員を囲む

「合同交流会」に参加して

NHO神奈川病院 石川 修子

平成19年4月28日（土）13時より、18年度退職会員を囲む「合同交流会」がアルカディア市ヶ谷で開催されました。国臨協関信支部が企画し、実現の運びとなるまでには、大変なご苦勞があった事と思います。支部長始め各理事の皆様には、改めてお礼申し上げます。

当日は、あいにくの雨模様となりましたが退職者10名とOB、現役を含め総勢162名のメンバーが集まりました。三浦関信支部長の挨拶で始まり、奥田臨床検査専門職、中田OB会会長、齋藤（信）先生、佐藤先生の祝辞の後、国際医療センター小林技師長の乾杯の発声で祝宴が始まり、それぞれに懐かしい思い出話に花が咲き、会場は熱気に包まれました。今回退官される方達は、昭和から平成の時代に渡り、高度成長期、オイルショック、バブル崩壊、さらには、国立病院から独立法人国立病院機構へと組織の再編等など激動の時代を国臨協の会員として組織の発展のためにご尽力頂いたこと改めて感謝申し上げます。

言葉では言い尽くせないご苦勞があったと思います。退職者一人一人の挨拶から色々な事が、走馬燈のように懐かしく思い出されました。今年から団塊世代の退職となりますが第二の人生は、「明るく、楽しく、元気良く・・・」をモットーに実りある人生を送られますように、また、定年前に次の人生へと歩み出す人にとってもこれまでの経験を生かして、新天地でご活躍されることを信じています。我々の職域も転勤族が多くなり、色々な施設で多くの出会いを経験しています。退職を控える我々もこの様な「合同交流会」が定着し、継続することを期待しています。



広告

よこ（シノテスト）

NHO長野病院 竹下 昌利

4月28日、アルカディア市ヶ谷（私学会館）において関信支部主催による初めての合同交流会が行われました。

当日は、10名の退職者の皆様を囲み、当時の思い出話や、近況を伺いながら楽しい2時間を過ごさせて頂きました。

『団塊の世代の大量退職の時代』の到来と叫ばれ今年度は28名の皆様とお別れしました。こうした大勢の退職者の皆様とのお別れの間として、昨年の支部総会で合同送別会開催が提案され、役職に関係なしに、全員に招待状を送り、開催しようと議決され、今日を迎えました。残念ながら出席出来なかった方々もありましたが、初めて開催されたことは大変に素晴らしいことだと思います。関信支部の三浦支部長始め理事の皆様方にお礼申し上げます。

さて、本会は、松林事務局長の開催の挨拶を合図に沢山のクラッカーが打ち上げられ盛大に始まりました。当日は、先輩を送り出した職場の仲間の他、大勢の諸先輩の皆様も出席され幾重にも和が作られまことに時代絵巻を見る様でした。私は、こうした送別の会には、幾度となく参加させて頂きましたが、私個人の感想を申しますと、地方から2回、3回と参加いたしますと、それなりに・・・が掛かりますし、3月の賞与が過去の幻と化した現在では非常に厳しい物がありました。お世話になった皆様と一堂に会してお会いでき、またまた、大先輩の先生方にもお会いできるということは、それはそれは執着至極でございます。地方人としては大変ありがたく感謝の念でいっぱいです。

今年度退職された皆様は、次の職能団体であるOB会に自動的に？入会されるシステムらしく、中田OB会会長の執拗なる勧誘が続き、会場は一瞬、静寂な場に化しました。が、皆様は新年度から背中に翼を付けられ、日本全国所狭ましと移動され、地方にいろいろな情報を提供して頂けると思います。『OBパワー恐るべし』皆様！健康に留意され、悠々と過ごされることをお約束下さい。残った我々も、数年後には皆様の手足となることでしょう。その日まで、バリバリの現役で居て下さい。

本日は、ご退官おめでとうございました。

広告

よこ（第一化学）

専門職の
ひとりごと

その3.

コラム

「退職会員を囲む合同交流会」に思うこと

NHQ関東信越ブロック事務所
臨床検査専門職 奥 田 勲

今回は、4月28日（土）に関信支部主催で初めて開催された「平成18年度退職会員を囲む合同交流会」について、現状で私の感じるところ（ただしこれは、あくまで私個人の考えであって、臨床検査専門職としての意見ではないことをお断りしておきます）をお話ししてみたいと思います。

実は、この話題（「個人を対象とした、職場以外の公の送別会」をとりやめ、その代わりに関信支部主催で「退職会員全員を対象とした合同送別会」という形で行うこと）は別に目新しいものではなく、また急に降って沸いた話でもありません。

私の知る限りでは、ここ数年来、関信支部総会等でも時折同様の意見が出されその都度議論されてきたものの、結果的には今日まで実現に至らなかったというのが実情です。その理由はさまざまですが、ひとつには、「人間誰しも、慣習的に永年続けてきたことを大きく変えるには抵抗感（良いことと分かっている、自らが矢面に立ってまでやりたくはない・あえて悪者にはなりたくない、といったような気持ち）」があるのかもしれません。

実際に、ひとは10人いれば10通りの、100人いれば100通りの意見があり、そこには多様な見方や評価（価値基準）があるのですから、みんなが一致しそろって新しい方向に動き出すこと、これは意外と出来るようで出来ないことなのだと思います。また、そこに個人的な利害（思惑）等が絡んでいけば、話はことさら複雑であり厄介でもあります。

また最近では、若手の会員諸氏からも「退職者の送別会」の在り方を見直す時期に来ているのでは、との意見が少なからず寄せられているのも事実です。

では、これらの意見をふまえ、今後どうすれば良いのでしょうか。

それは、組織をあずかるリーダーの見識（先見性）およびその指導力にかかっているといっても過言ではありません。

何であれ、新しいことをやろうとすれば（たとえそれがどんなに良いことであっても）必ずといっていいほど最初は反対意見（抵抗感）が付きものです。

そして、いつの時代も当事者は周囲の厳しい批判にさらされながら、成果（成功して当たり前という）が求められます。

このように、必ずしも会員諸氏の充分な理解と賛同が得られたとは言い難い状況下で、勇気をもってこの会の開催に踏み切られた三浦支部長をはじめ関信支部役員の方々には、言葉に尽くせないほどの大変なご苦労があったに違いありません。傍らで応援していたひとりとして、その英断に敬意を表し、心よりエールを送りたいと思います。

「それが関信支部会員相互の利益に寄与することである」という強い信念のもとに行ったのですから、この会は明日

につながる関信支部の大切なイベント（退職会員を送る公の送別会はこの会で一本化するという考えのもと）として、支部会員に高く評価され定着していくことでしょう。またそのためには、われわれ関信支部会員ひとりひとりが本趣旨を充分理解し、みんなでこの会を盛り上げ育てていくことが何より重要だと考えます。

ところで話は変わりますが、当日の私の感想を少しばかりお話しいたします。結果的には予想を超える「大盛会」であったように思います。

実は、私も当日の雰囲気を少し心配していたのですが、いざふたを開けてみるとそれも全くの杞憂に終わりました。実際には、至るところで主賓（退職会員）の方々と会員（現役・OB）、またOB諸先輩と現役会員の親交の輪が数多くできていて、会場内は終始和やかな楽しく明るい雰囲気に包まれていました。

また、今回私には予想しなかった新たな発見もありました。それは、OBの先輩方と若手の現役会員の話の盛り上がりようにいささか驚かされたのです。

よくよく考えてみれば、私を含め現役会員の多くはOBの先輩方にお世話になって今が在るわけですから、久しぶりの再会でお互いに盛り上がらないはずはないのですが……。

というわけで、この会はわれわれ現役会員にとっても大先輩への近況報告（頑張っている姿をみていただく）の絶好の機会にもなったようです。

何故くどくどこのようなお話をするのかというと、OBの先輩方との交流は、現役はこれまで協議会の一部役員に限られており、実は若手の現役会員との公の交流の場はほとんどありませんでした。この会が盛り上がったひとつには、それが大きな要素としてあったように思うからです。

ですから、この会は本来の趣旨である「退職会員を囲む会」であると同時に「OBと現役の貴重な交流の場」にもなったわけです。このような意義ある会がこれから定期的に年1回行われること、とても良いことではありませんか。

それにしても、「退職会員を囲む合同交流会」とは絶妙のネーミングでしたね。主賓である退職会員のみなさんには、単に送別会ではなく、来年からは「OBと現役」として「これからも末永くご指導下さい」とのわれわれ現役会員の気持ちが充分に伝わる、文字通り明日につながるすばらしい名称だと思います。

あらたにはじまった「退職会員を囲む合同交流会」、来年からはみんなでさらに盛り上げて（もちろん自らが参加して）、支部学会と並び称される国臨協関信支部の一大イベントに育てていきましょう。



人 / 事 / 異 / 動

【平成19年 4 月 1 日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
小林和博	国際医療	技師長	精・神センター武蔵	技師長
杉村有司	精・神センター武蔵	技師長	千葉東	技師長
北原司	松本	技師長	下志津	技師長
奥田勲	東京医療	技師長	西埼玉中央	技師長
原田正一	西埼玉中央	技師長	多磨全生園	技師長
飯島謙二	多磨全生園	技師長	中信松本	技師長
宮崎澄夫	災害医療	技師長	長野	技師長
宮原雄一	千葉東	技師長	がんセンター中央	副技師長
高藤博	中信松本	技師長	精・神センター国府台	副技師長
小松和典	長野	技師長	横浜医療	副技師長
小賀秀巳	下志津	技師長	がんセンター東	副技師長
川畑久	甲府	技師長	千葉医療	副技師長
當銘良也	がんセンター中央	副技師長	水戸医療	副技師長
樋口祐子	精・神センター国府台	副技師長	久里浜アルコール症	副技師長
菅孝幸	がんセンター東	副技師長	西新潟中央	副技師長
渡司博	精・神センター武蔵	副技師長	東長野	副技師長
樋口久晃	千葉医療	副技師長	神奈川	副技師長
高崎信一	久里浜アルコール症	副技師長	下総精神医療	副技師長
新保利一	西新潟中央	副技師長	新潟	副技師長
高橋寿一	下総精神医療	副技師長	がんセンター中央	主任技師
海原桂一	新潟	副技師長	国際医療	主任技師
小川勝子	水戸医療	副技師長	埼玉	主任技師
阿部桂子	神奈川	副技師長	南横浜	主任技師
水島美津子	東長野	副技師長	さいがた	主任技師
林澤哲	横浜医療	副技師長	千葉東	主任技師
熊井進	国際医療	主任技師	東京医療	主任技師
若藤陽	がんセンター中央	主任技師	がんセンター東	主任技師
伊武茂	がんセンター中央	主任技師	東京	主任技師
大谷雅彦	がんセンター中央	主任技師	東京	主任技師
大会春光	精・神センター国府台	主任技師	西埼玉中央	主任技師
小沼進吉	千葉東	主任技師	千葉医療	主任技師
高橋邦夫	千葉医療	主任技師	長野	主任技師
奥山五朗	長野	主任技師	村山医療	主任技師
柳澤隆	村山医療	主任技師	多磨全生園	主任技師
佐藤俊行	千葉東	主任技師	精・神センター国府台	主任技師
加藤寿夫	東京医療	主任技師	水戸医療	主任技師
根本浩	災害医療	主任技師	栃木	主任技師
長澤透	水戸医療	主任技師	中信松本	主任技師
鈴木由美子	東	主任技師	長野	主任技師
小池朗	高崎	主任技師	栗生楽泉園	主任技師
加藤眞一郎	長野	主任技師	多磨全生園	主任技師
森並枝	栗生楽泉園	主任技師	村山医療	主任技師
西田隆司	多磨全生園	主任技師	埼玉	主任技師
大貫敬司	村山医療	主任技師	相模原	主任技師
小関燈	埼玉	主任技師	災害医療	技師
刈部正宏	がんセンター中央	主任技師	千葉東	技師
若井智世	がんセンター東	主任技師	精・神センター武蔵	技師
立井康則	多磨全生園	主任技師	西埼玉中央	技師
中野明	埼玉	主任技師	がんセンター東	技師
松本善信	相模原	主任技師	高崎	技師
湊川靖之	西群馬	主任技師	成育医療	技師
岩間裕子	水戸医療	主任技師	新潟	技師
太田和秀	さいがた	主任技師	東京	技師
小松崎正博	西埼玉中央	主任技師	がんセンター中央	技師
大野浩	栃木	主任技師	栃木	技師
藤澤京亮	災害医療	主任技師	成育医療	技師
中村良幸	中信松本	主任技師	災害医療	技師
橋本洋二	成育医療	技師	がんセンター東	技師
牛込雅彦	精・神センター武蔵	技師	霞ヶ浦医療	技師
澤部祥子	がんセンター中央	技師	がんセンター中央	技師

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
内田ゆみ	埼玉	技師	国際医療	技師
森雲伸夫	新潟	技師	西新潟中央	技師
久保千穂	西新潟中央	技師	国際医療	技師
柳保順一	相模原	技師	がんセンター中央	技師
川輝子	災害医療	技師	埼玉	技師
手塚俊介	災害医療	技師	東京医療	技師
瀬戸茂誉	西埼玉中央	技師	神奈川	技師
柳進也	がんセンター東	技師(採用)	国際医療	技師(非常勤)
安井一浩	成育医療	技師(採用)	甲府	技師(非常勤)
小林祐子	がんセンター中央	技師(採用)	高崎	技師(非常勤)
岩壁祐利	栃木	技師(採用)	国際医療	技師(非常勤)
平木三徳	国際医療	技師(採用)		
田中静	国際医療	技師(採用)		
繁野美紀	多磨全生園	技師(採用)		
小伸彦	栃木	技師(採用)		
田中結奈	霞ヶ浦医療	技師(採用)		
下重さゆり	水戸医療	技師(採用)		
竹内智也	水戸医療	技師(採用)		
此村友貴	水戸医療	技師(採用)		
河本峰奈	神奈川	技師(採用)		
岩崎郁恵	東京	技師(採用)		
星野史恵	茨城東	技師(採用)		
大澤望美	松本	技師(採用)		
岸澤美帆	高崎	技師(採用)		

【平成19年 5 月 1 日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
奥山美由紀	東京医療	技師	がんセンター中央	技師
朝比奈大輔	がんセンター中央	技師	国際医療	技師(非常勤)

【平成19年 3 月31日付 退職・辞職者】

氏 名	施設名	役職名	退職
山下幸作	国際医療	技師長	退職
古家正道	東京医療	技師長	退職
嶋博	災害医療	技師長	退職
増田伸也	松本	技師長	退職
狩野利四郎	甲府	技師長	退職
片山栄二	精・神センター武蔵	副技師長	退職
寺門陽子	水戸医療	主任技師	退職
篠田アキ子	がんセンター中央	主任技師	退職
阿部芳子	新潟	主任技師	退職
郡司則雄	茨城東	主任技師	退職
渡部美都子	相模原	技師	退職
山岡直子	松本	技師	辞職
佐々木優	栃木	技師	辞職
小室悦子	水戸医療	技師	辞職
上野喜一	多磨全生園	技師	辞職

編集後記

まだ6月ですが真夏の様な気温の日もあれば肌寒く震えてしまう様な日もあります。

体調もそうですが精神面にも影響があると先日ラジオで聞きました。迷うのは着る物ぐらいにしたいものです。会員の皆様もお身体ご自愛下さい。

(記：広報部 竹田)

研修会のお知らせ

第 6 回国臨協関信支部主催研修会（輸血）

日時：平成19年 7 月21日（土）14：00～

場所：国立国際医療センター 5 階大会議室

講師：石井 規子技師（昭和大学附属病院）

内容：臨床に役立つ輸血検査の結果報告、
症例を交えて他

抄録集申し込みのお知らせ

第35回国臨協関信支部学会の抄録集は、各会員にはCDにて配布いたします。また、印刷された抄録集は各施設 1 冊の配布となります。それ以外で抄録集をご希望の方は有料にて予約を承ります。

尚、お申し込みは下記の要領でメールにてお願いいたします。

申し込み先：学術担当理事 小 松 久 人
(国立成育医療センター)

E-mail：komatsu-h@ncchd.go.jp

予 約 期 限：平成19年 7 月20日（金）まで

料 金：2 0 0 0 円

平成 19 年度 関信支部役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 杉 村 有 司
委 員 原 田 正 一
委 員 塩 澤 勇 治

平成19年度 9 月の関信支部総会において役員の改選を行います。国臨協関信支部役員推薦規定第 2 条により役員を公募します。候補者は下記の要領にて書類を委員会に提出して下さい。

記

1. 施設名・氏名・年齢・性別
2. 職務歴
3. 会員歴
4. 国臨協関係役員歴
5. 抱負（簡単に）

締め切り 平成19年 7 月 6 日（金）

提 出 先 〒187-8511

東京都小平市小川東町 4-1-1
国立精神・神経センター武蔵病院
臨床検査部 杉 村 有 司

地区会だより

～ 群馬地区研修会・総会を終えて～

国立療養所栗生楽泉園 向 井 和 孝

平成19年 3 月10日（土）国立病院機構高崎病院「地域医療研修センター」において平成18年度国臨協関信支部群馬地区研修会・総会が開催されました。

当日は関信ブロックより奥田臨床検査専門職、関信支部より三浦支部長、吉田副支部長を迎え、会員多数の出席により盛大に行われました。

始めに教育講演として、元ハンセン病患者で栗生楽泉園に入所されている丸山多嘉男氏に「私の歩んだ道」という題で、氏の生い立ちから栗生楽泉園に入所されるまでの生活のことなどを語っていただきました。ハンセン病に関する知識はある程度ありましたが、当事者の"生の声"を直接聞き、その思いが胸にずっしりと重く伝わってきました。ある会員は発言の途中で感極まり、涙を流す程でした。

その後、奥田専門職から「業務指導及び連絡事項について」お話があり、今後私たち国臨協会員が進む道筋を示していただきました。スキルアップのための超音波・輸血・感染管理研修や感染情報の充実など盛りだくさんの内容でした。

教育講演終了後、群馬地区会総会を行いました。平成18年度経過・会計・会計監査報告、平成19年度事業計画・会計予算・役員選出の議案が審議決議されました。

総会終了後、上州名物「空っ風」に吹かれながら高崎の街へ繰り出し、居酒屋？「からっ風」で会員相互の親睦を深めお開きとなりました。

平成19年度群馬地区会役員

会 長	原 和子	(西群馬病院)
事務局長	向井 和孝	(栗生楽泉園)
会 計	筑井 とよ美	(高 崎 病 院)
理 事	清水 紀臣	(高 崎 病 院)
	古江 裕志	(沼 田 病 院)
	小坂橋 歩	(西群馬病院)
会計監査	岸 悦子	(西群馬病院)

